

-

山地名で時友・友行地内に広
層層を基層とする標高約一
mの台地上に立地し、周辺
は宅地化が進んでいる。中
世には野間荘の一部であつ
たと考えられている遺跡で
ある。

既往調査は小規模かつ単
発的なものが多いため、詳
細なデータは少ない。一九
七〇年の山陽新幹線建設に

木簡は二基の井戸から出土している。SE一からは、埋土最下層付近から和泉型瓦器椀、同安窯系青磁椀、平瓦片などに伴って(1)の卒塔婆形木製品が、SE二からは同様に最下層付近から土師器皿、和泉型瓦器椀、漆器椀、曲物、木匙などに伴って(2)の木簡が出土している。いずれも共伴する瓦器椀の編年観から一二世紀後葉から一三世紀初頭頃のものと思われる。

SE

- (1)
- | | |
|--------------------------|-------|
| ☐ | 〔南無力〕 |
| ☐ | |
| ☐ | |
| ☐ | |
| ☐ | |

(343) $\times 27 \times 5$ 061

SEI

- (2) 一日百部□□□□

261×44×5 032

(1)(2)いずれも墨痕は消失しており、腐食の差で墨書部分がわずかにレリーフ状に浮き上がって遺存していた。(1)は下端が折損する。

(2)は表面左端が剝離し、「目」の横に穿孔がみられる。「一目」は「百」の可能性も考えられる。

9 関係文献

尼崎市教育委員会『尼崎市内遺跡 復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書』（一九九九年）

（大川勝宏）



(1)



(2)

兵庫・明石城武家屋敷跡

あかしじょうぶけやしき

1 所在地 兵庫県明石市東仲ノ町・大明石町

2 調査期間 一九八六年（昭61）三月～一九八八年一〇月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者 岡田章一・長谷川真・村上泰樹・山下史朗・

久保弘幸・甲斐昭光

5 遺跡の種類 近世武家屋敷跡

6 遺跡の年代 古墳時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

人丸山に位置する明石城の南側、中堀と外堀に挟まれた空間は、

江戸時代の武家屋敷地帯であり、その名残の短冊型地割りが部分的に現存している。



（明石・須磨）

現在も続けられている教次の発掘調査によって、その実態が次第に判明しつつあるが、山陽電鉄本線連続立体交差事業に伴う調査は、